



まちコレポ

このレポートは、かりや夢ファンド（★印参照）の採択事業をまちづくりコーディネーター【愛称＊まちコ】が取材し、まとめました。

団体名 circulation_beans コーヒーかすの再利用活動

事業名 “circulation_beans”コーヒー豆のかすから うまれる・つながる・循環する
まちのみんなのコミュニティガーデン事業 [令和5年度まちづくり活動]

事業の紹介

市内のごみの廃棄量を減らすため、回収したコーヒーかすを堆肥として再利用し、畑で作物を栽培します。また、畑作業を通して市民同士の交流の活性化につなげていきます。

「かりや夢ファンド補助金」は、作業に必要な作物の種や苗および道具類の購入に活用されました。環境保護の視点から、必要な備品は最小限に抑えて、自分たちで廃材などを活用して手作りで賄っています。



補助金額 5 万円 / 総事業費 10 万円

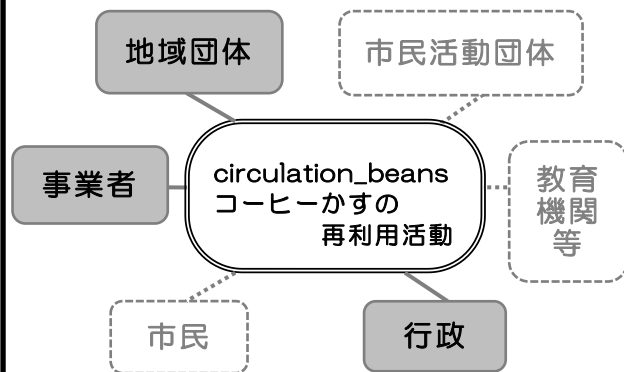


団体代表の大浦さんと参加者



染料と食用になる「たであい」

協働の役割分担



事業者 ＜役割＞	いこいプレイス＜畑の管理・運営＞ すぎな作業所＜堆肥化アドバイザー＞ つくし作業所＜パウダー加工協力＞ NOBI COFFEE、Sugi coffee Roasting ワクラバコーヒー＜コーヒーかす提供＞ KARIYA 75 BREWING＜麦芽かす提供＞ のこむぎ（パン屋）、Otomo（焼き菓子屋） ＜収穫物入り製品の販売＞ ルビットタウン刈谷 無印良品＜ワークショップ実施協力＞
地域団体	重原公民館＜ワークショップ実施協力＞
行政	広報広聴課＜PR＞

取組みの流れ

こんな想いでスタートしました

- ・コーヒーが好きで、飲んだ後のかすを役立てたいと思っていました。廃棄してしまいがちなコーヒーかすから新たな作物を栽培することにより、ゴミを少しでも減らしながら環境問題や資源の再利用について考えたいと活動を始めました。
- ・畑という場所を“コミュニティガーデン”として捉え、年齢・性別・障がいの有無に関わらず多様な人々が活躍できる開かれた場所となるように活動していきたいです。

こんな準備をして取り組みました

- ・京都で同様の活動を行うご夫婦を SNS で知ったことをきっかけに、コーヒーかすと麦芽かすの堆肥づくりを教わりました。
- ・現在コーヒーかす、麦芽かすを提供してくださっているお店には、大浦さん自ら相談に出向き、連携につなげました。
- ・コーヒーかすなどの回収や連携先訪問時は、環境に配慮し、自転車や公共交通機関を利用して移動しています。

こんな点を工夫しました

- ・誰にでも開かれている場所にするため、活動の情報はインスタグラムで発信しています。
- ・以前よりコンポストで堆肥づくりを行う「すぎな作業所」にアドバイスをもらい、勉強会を実施しています。
- ・活動に使うものは、新たに購入せず、すでにあるもので賄うようにしました。
- ・協働先は限定的にならないようにしています。

- 「まちづくりコーディネーター」は、刈谷市民のまちの課題を「自分ごと」と考え、取り組んで行くために、参加のよびかけ・対話・活動の運営をお手伝いしています。

- ★「かりや夢ファンド」は、刈谷市民が「刈谷のまちをよくしていく」活動を応援する補助金制度です

【問合せ】 刈谷市役所 市民協働課 TEL0566-95-0002 詳細は市ホームページをチェック！ >>



こんな活動をしました！

日 時：2023年11月21日（火）10時00分～12時00分

場 所：下重原町の畑

参加者：9名（運営者2名、ボランティア5名、いこいプレイス作業所利用者2名）

広報媒体：インスタグラム

内 容：・毎月2回（第3火曜日ほか）開放日を設け、活動しています。今回は、サツマイモの収穫、藍染の染料となる「たदैあい」の種を収穫しました。染料となる葉はすでに取り終えているため、来期の準備として種を取りました。たदैあいを数本ずつ束にし、ヒモでくくっていきました。

・活動日前には、農作業をする手順や段取りを計画し、参加者にどのような作業をしてもらうかを作業日ごとに考えています。

・これまで育てた作物は、果物や野菜、紅花、ハーブなどで、有用性が高い植物を育てるようになっています。また、現在は土づくりをしている最中で、コーヒーかす等を利用した堆肥は一部に漉き込み、この土がどのような状態かを見えています。

・この日は、ボランティアとして、重原地区長さん、インスタグラムを見て初めて来た方、いこいプレイス利用者の方が参加していました。

こんな効果が生まれました

- ・畑で同じ作業をすることで、見知らぬ人ともコミュニケーションが取れ、人と人とのつながりが生まれています。
- ・ゴミとして捨てられていたコーヒーかすが資源として活用され、新たな作物となって生まれ変わると共に、環境を守る第一歩となります。
- ・畑での作業で季節を感じることが出来ます。
- ・食べ物のありがたさを知ることが出来ます。

こんな課題がありました

- ・補助金は2年間のため、今後の運営資金の確保は課題としてあります。
- ・ボランティアとして参加してくれる方は総勢30～40人いますが、会員ではありません。思いや活動に賛同してくれる仲間をどのように増やすのが課題です。
- ・収益事業としていくために、刈谷にある企業との連携を考えており、企業に向けたアプローチも検討しています。

今後に向けて

- ・ロスが少ない有用性の高い作物を選定し、栽培量や種類も増やしていきたいです。
- ・ハーブを用いたシロップ作りや、たदैあいの葉をパウダー化するなど、商品となるものを作っていきたいです。
- ・いろいろなグループやお店と連携して、活動を深めていきます。
- ・大きな企業にも声をかけ、福祉に応援や協力をしてもらえるよう働き掛けていく予定です。

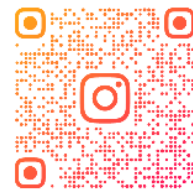
参加者の声

- ・夏の畑作業は、暑さで大変でした。でも、作業は無心になれるので楽しいです。
- ・インスタグラムで知り、初めて参加しました。刈谷と豊田から来ました。普段は、農業大学社会人コースで学んでいて、土づくりを学びたいと思っています。
- ・この活動をもっと多くの人に知ってもらい、広がっていくといいな、と思っています。
- ・初めて会った人とも、畑作業を通して話をする事ができました。

主催団体の声

- ・コーヒーかすを堆肥化することで環境について考える人たちが増えてほしいです。
- ・多様な人々が畑という開かれた場でつながっていけたら嬉しいです。
- ・育てた作物を商品化し、ゆくゆくは利益をいこいプレイスの利用者さんへ還元していきたいです。

活動の情報は
コチラ！



@CIRCULATION_BEANS

取材を終えて…まちコ感想

- ・小さなお子さんを育てながら、この活動を始められた大浦さん。地球環境を本当に真剣に考えて、自転車と公共バスと徒歩で市内を飛び回って活動されています。重原の住民として、私にできることからお手伝いさせていただきたいと思いました。（鈴木小枝）
- ・大浦さんの「ゆるーいつながり」を大切にしたいという言葉が印象的で、実際に取材をすると、単にゴミの再利用の農業活動ではなく「地域」と「人」が繋がる場にもなっていると感じました。また、誰もがゴミを減らしたいと思う部分を活動の中心に持つことで団体だけの活動にならず、「農作業に興味があって参加した」等、参加者たちが個々に興味を持って参加できる切り口になっており、気軽に参加しながら社会貢献につながる素敵な事例だと思いました。（塚本裕章）